

【2024年度】放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		第1ブース、第2ブースというように「動」の動きと「静」の動きをある程度分けられるようにしている。そうすることで、児童が分散され事故や怪我につながりにくくしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		管理者が利用状況に応じて判断し、配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		入口に若干の段差があり、スロープはない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		部屋の中を広々と使えるように空間をあけている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		事業所がワンフロアになっているため、個別に空間を作ることは難しいが、壁を作ったり、一時的に倉庫やトイレを使用することで個別の場所を確保している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		全スタッフで声掛けや話し合いを行い、情報を回すようにしている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な面談やヒヤリングを行い、ニーズや希望等を確認している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		スタッフの面談や1on1を行っている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在は外部評価を実施していないが、これから検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		虐待防止研修など定期的に研修を実施している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		スタッフ間で話し合い、支援プログラムを決定している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	○		定期的な面談やヒヤリングを行い、ニーズや希望等を確認して個別支援計画に反映している。
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的スタッフ間でのモニタリング会議やケース会議を行い、検討している。
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		全スタッフが個別支援計画書をすぐに関覧できるようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		既定のアセスメントシートを活用し、日々の利用記録と共に確認を行っている。

		公表年月		2025年2月	事業所名	ハッピーライフあさひ
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	16	個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		面談等で保護者や本人の意向も確認しながら、各項目においてもスタッフ間で検討し、できる限りの具体的な支援を設定している。支援項目については保護者からの確認も行って決定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		スタッフ間で子どもたちや保護者の思いも取り入れながら検討している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもたちの主体性や交流なども考慮しながら、活動が偏ることの無いように立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団生活の中で個別活動も集団活動も行えるように区切りをつけて活動するようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼や終礼を行っており、その日の情報をチーム間で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		朝礼や終礼を行っており、その日の情報をチーム間で共有している。終礼ではヒヤリハットも含めた「気付き」の共有も行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は毎日欠かさず行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		その都度、担当と期日を決定してモニタリング会議を行っている。	
	24	【放デイ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		子どもたちの心身の状況に合わせて支援を組み合わせてながら行っている。	
	25	【放デイ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		絵カードなどの視覚的ツールを活用しながら自己決定。自己発信ができるように工夫しながら支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		スタッフ間で話合ったことも含めて、スタッフから代表者を選出して参加している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		それぞれの学校や地域の福祉施設等と協力して支援や企画を行うことがある。	
	28	【放デイ】学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		送迎時の情報交換とその都度必要に応じて連携を図っている。	
	29	【放デイ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて連絡を行い、情報の共有に努めている。	
	30	【放デイ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて連絡を行い、情報の共有に努めている。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	31	【児発】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			
	32	【児発】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			
	33	地域の子童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修の機会は少ないが、必要に応じて情報交換を行っている。
	34	【放デイ】放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の児童クラブと連携してイベントを行っている。
	35	【放デイ】(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		できる限りの参加するよう努めている。
	36	【児発】保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			
保護者への説明等	37	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時の情報交換はもちろん、定期的な面談やヒヤリングにて情報の共有を行っている。
	38	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		面談時に保護者の悩みに対して助言をしたり、保護者同士の交流の場を提供する機会をつくっている。
	39	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者にできる限り具体的に説明できるよう努めている。
	40	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的な面談やヒヤリングを行い、利用者本人やご家族の意向を確認している。
	41	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書を作成後、送迎時等に説明を行っている。
	42	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や面談時に必要に応じて、助言を行っている。
	43	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		「保護者カフェ」や「保護者やご家族参加型のイベント」などを企画し、保護者同士や兄弟等の交流の機会をつくっている。
	44	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		どんな小さな案件であっても真摯に向き合い、迅速に対応できるようにスタッフ間での情報交換やチーム連携を意識している。
	45	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月のイベント表配布やSNS発信、HPの更新・お知らせ等で発信している。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
保護者への説明等	46	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類等に関しては鍵付きのロッカー等を使用して保管している。また、管理者の発信により個人情報の取り扱いについての注意喚起を都度行っている。
	47	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カード等の視覚的なツールの活用や契約書などのルビ表示を行っている。
	48	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		イベントによっては地域の子どもたちや他の施設利用者とともにイベントを行っている。
非常時等の対応	49	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約時や面談時にそれぞれのマニュアルについて説明を行っている。また、いつでも確認できるようスタッフや利用者家族にお伝えしている。避難訓練を必ず年3回以上行っている。
	50	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを作成し、契約時に保護者にお伝えしている。年3回の避難訓練や防災学習を行っている。
	51	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時にアセスメントで必ず確認している。
	52	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者に確認を行いながら、適切な対応に努めている。
	53	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画の作成や研修を行い、死角を作らないスタッフ配置を意識している。
	54	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		ご家族に周知し、閲覧できるようにしている。
	55	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書をその都度作成し、朝礼や終礼時に周知して再発防止に努めている。
	56	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を行い、スタッフに周知している。
	57	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	○		契約時に身体拘束について詳しく説明し、同意書のサインをいただいている。また、必要だとあらかじめ判明している児童に関しては個別支援計画書に記載している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。